

## 第 16 回建物・構築物検討会 議事録

1. 日時 平成 21 年 2 月 2 日 ( 月 ) 18:00 ~ 20:40
2. 場所 日本電気協会 4 階 B 会議室
3. 出席者 ( 順不同, 敬称略 )
  - 出席委員: 久保主査 ( 東京大学 ), 北山副主査 ( 首都大学東京 ), 貫井幹事 ( 東京電力 ), 斎藤 ( 北海道電力 ), 尾形 ( 東北電力 ), 赤瀬 ( 東京電力 ), 星野 ( 中部電力 ), 阿比留 ( 中国電力 ), 細川 ( 四国電力 ), 船本 ( 九州電力 ), 野口 ( 電源開発 ), 川里 ( 日本原子力発電 ), 清水 ( 大林組 ), 小川 ( 清水建設 ), 森山 ( 大成建設 ), 大宮 ( 竹中工務店 ), 中島 ( 東芝 ), 平子 ( 日立 GE ニュークリア エンジ - ), 吉賀 ( 三菱重工業 ) ( 計 19 名 )
  - 代理出席: 池内 ( 関西電力・伏見代理 ), 藪内 ( 鹿島建設・福島代理 ) ( 計 2 名 )
  - 欠席委員: 藤井 ( 北陸電力 ), ( 計 1 名 )
  - 常時参加者: 土井 ( 新潟大学 ) ( 計 1 名 )
  - オブザーバ: 杉山 ( 東京電力 ), 松尾 ( 鹿島建設 ), 田中 ( 大林組 ), 藤田 ( 清水建設 ), 近藤 ( リサイクル燃料貯蔵 ), 柳下・井原 ( 東電設計 ), 渡辺・高倉 ( 大成建設 ), 川西・鬼丸 ( 竹中工務店 ), ( 計 11 名 )
  - 事務局: 糸田川 ( 日本電気協会 ) ( 計 1 名 )
4. 配布資料
  - 資料 16-1 第 15 回建物・構築物検討会議事録 ( 案 )
  - 資料 16-2-1 JEAC4618 「鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程」 ( 制定案 ) に関する書面投票の結果について
  - 資料 16-2-2 JEAC4618-200X 「鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程」制定案に関する分科会書面投票における意見への対応 ( 案 )
  - 資料 16-3-1 JEAG4616-20XX 「乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術規程」 ( 案 ) 各委員からのコメントに対する回答
  - 資料 16-3-2 JEAG4616-20XX 乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術規程 ( 案 )
  - 資料 16-4 原子力規格委員会 耐震設計分科会 平成 21 年度活動計画 ( 案 )
5. 議事
  - (1) 会議定足数の確認

事務局より, 代理出席者 2 名が紹介され, 規約に基づき久保主査の承認が得られた。また, 代理出席を含む出席委員は全 22 名中 21 名で, 委員総数の 2/3 以上で, 議案決議の定足数を満たしていることが報告された。
  - (2) 前回議事録の確認 ( 資料 16-1 )

事務局より, 前回議事録 ( 案 ) が読み上げられ, 正式議事録とすることが確認された。
  - (3) JEAC4618-200X 「鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程」制定案に関する分科会書面投票における意見への対応について ( 資料 16-2-1, 2 )

事務局が資料 16-2-1 により分科会書面投票結果を紹介した後、川里委員(日本原電)より、資料 16-2-2 に基づき、建物・構築物関係の意見とその対応案の説明が行われ、審議した。

その結果、一部修正し、2月13日の耐震設計分科会で対応案を報告することとした。

(修正箇所等)

- ・資料 16-2-2 1 頁の意見 No.10 の Pa1 などの説明がないという意見への対応は、図中に「コンクリート支圧破壊時の引抜き耐力 Pa3」のように記載することとする。また、意見 No.11 の対応案は、「理論式に基づく正解」ではなく、「弾性論に基づく解」とする。
- ・(添付 2)1 ページ制定案欄 2.2.1.1(3)の“「S 基準」ならびに「SRC 基準」を準用してもよい。”の「ならびに」の意味が「または」であるのであれば、解説にどちらか一方でよいことを記載しておく方がよい。
- ・(別添 3)3 ページの下線部修正案は、「定着部を鉄筋方式とした試験体では SC 壁の耐力が得られなかった」および「鉄筋の定着方式を除外した」という主旨に見直すこと。
- ・(添付 8)1 ページの下線部修正案の「目安値を超える場合は、」は「この値を超える場合は、」としてはどうか。また、「性能低下のないことを確認する必要がある。」は、「性能低下のないよう、留意する。」とした方がよい。

(4) JEAC4616-20XX「乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術規程」制定(案)について(資料 16-3-1,2)

杉山氏(東京電力)より、資料 16-3-1 に基づき、前回の検討会以降の委員コメント、耐震設計分科会中間報告時コメントのうち主要な 14 項目とその回答案について説明が行われ、審議した。

その結果、以下の修正および追加コメント対応を実施の上、2月13日の耐震設計分科会に諮ることが全員の挙手により承認された。(追加コメントは2月6日17時までに貫井幹事まで連絡)

(修正箇所等)

- ・資料 16-3-1 の 2 ページのコメント No.3 のコメント内容欄の“「中間貯蔵建屋」”の前に“略称である”を追加すること。
- ・同上 3 ページのコメント No.10 液状化関連の回答は「この方法は液状化の激しさを地盤全体的に評価するものである。」など日本語としてもわかりにくい。分科会ではこの資料で説明するのかが。個々のコメントと対応はこまごま説明せず、資料 16-3-2 に基づき説明するよう考えている。
- ・同上 4 ページのコメント No.12 の回答の「掘削時に水若しくは泥水を使用しない方法によって打設する場合」の表現は適切か。「水中若しくは泥水中のコンクリート」のような表現ではないのか。

(5) 平成 21 年度活動計画について(資料 16-4)

貫井幹事より、資料に基づき、耐震設計分科会の計画内容の紹介があった。(コメントがあれば、2月6日17時までに貫井幹事まで連絡)

(6) その他

次回(第 17 回)の検討会開催日程については、分科会での審議や原子力規格委員会への対応の進捗などを踏まえて別途調整することとした。

以上